

# 山口大学

YAMAGUCHI UNIVERSITY

# 共同獣医学部

Joint Faculty of Veterinary Medicine



# EAEVE 認証 アジア初の 欧州認証取得

European  
Association of  
Establishments for  
Veterinary  
Education



## EAEVEとは

多様な日本語変換があるが、山口大学・鹿児島大学では「欧州獣医学教育機関協会」と呼称。欧州の獣医学高等教育機関が共同運営する公的組織で、獣医学教育の認証評価を行っている。今回の日本の認証取得は、山口大学・鹿児島大学と北海道大学・帯広畜産大学が国の「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」(2012~17年度)による支援を受けて、獣医学教育改善のために共同教育課程・学部を展開し、国際通用力のある獣医師の養成と日本の獣医学教育の水準向上を目指した連携事業の成果の一つ。北海道大学・帯広畜産大学も同時に認証を取得した。



# 国際水準の 獣医学教育を实践

動物由来感染症や食の安全、伴侶動物(ペット)への高度医療などで、獣医師の役割に社会のニーズが高まっています。山口大学と鹿児島大学の共同獣医学部は、これらの課題に対応するため教育改革・改善に取り組み、2019年12月、**欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)の国際認証をアジアで初めて取得しました。**国際水準の獣医学教育で、高度の知識・手技を習得した獣医師の様々な領域での活躍が期待されます。

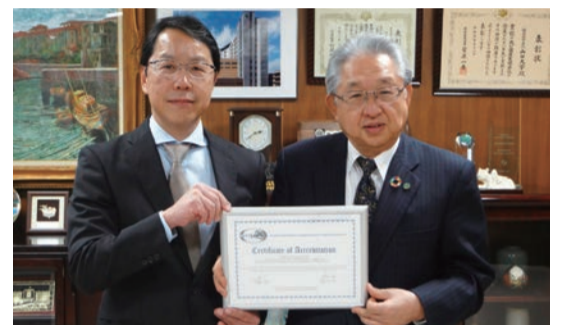


## EAEVE 認証申請用自己評価書 (SER: Self Evaluation Report)

EAEVE認証受審のために申請機関が提出する自己評価書。目標・組織、財政、カリキュラム、施設・設備、動物及び動物由来教材、学習資源、入学・進級及び福祉、学生の評価、教職員、大学院及び研究、成果評価及び質保証、EAEVEの指標のそれぞれの観点から12章により構成。



遠隔講義システムによる鹿児島大学との授業風景  
(上が山口大学・送信授業。下が鹿児島大学・送信授業。)



## 動物感染症や食品安全対策 高まる獣医師の社会的ニーズ

近年、グローバル化の流れの中で、獣医師の専門性が必要とされる領域は極めて多岐にわたり、重要になっています。口蹄疫やBSE(牛海綿状脳症)、高病原性鳥インフルエンザなど家畜の疾病が発生し、人獣共通感染症や越境性動物感染症などによる健康被害や社会経済的損失の対策強化、畜産物輸出入に伴う食品などの安全確保が課題になっています。

また、人生を共にする伴侶動物に対する生命観も変化し、ペットに対する獣医療の高度化や細分化が求められています。その一方で、ペットに寄生するマダニが媒介するSFTS(重症熱性血小板減少症候群)の西日本を中心とした発生や、日

本では撲滅したとされる狂犬病ウイルスが海を渡るコウモリによって国内に入る危険性なども指摘されています。

このような背景から、わが国でも獣医師を養成する獣医学教育の国際水準化の必要性が増大しています。牧畜が発達し早くから獣医療の高度化が進んだ欧米では、欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)や米国獣医師会(AVMA)による獣医学教育認証の取得により、教育の質の担保を行うことが一般化されています。一方、アジア圏では国際基準による認証評価制度が確立しておらず、世界の潮流から立ち遅れているのが現状でした。



## 獣医療の高度化・国際化に対応 共同学部で獣医学教育を改善・改革

山口大学では、こうした状況を改善し、日本の獣医学教育を改革するための取り組みを10年前から始めました。国際水準の教育の提供とグローバルに活躍できる人材=国際獣医師=の育成を目的として、2012年には鹿児島大学と共同獣医学部を設立し、獣医学教育に関わるあらゆる事項の改善をハード・ソフトの両面から行い、その教育改革への外部評価の指標としてEAEVEによる獣医学教育国際認証の取得を目指しました。

獣医学教育では、山口大学は犬や猫など伴侶動物の獣医療、鹿児島大学は牛や豚など産業動物の獣医療を得意分野としてきました。共同獣医学部では、インターネット回線で両大学を結び、それぞれの強みを生かした臨場感あふれる遠隔講義を行っています。

国際認証を取得するために、山口大学では人数・質ともに高い水準が求められ

る教員体制、臨床実習や病理学実習、そして国際水準の獣医師を育てるための教育カリキュラムおよびその質保証という、大きく三つの項目を充実するための改善を行ってきました。

具体的には、各教科に対応する教員を確保し、病理解剖はこれまでやっていなかった数と動物種を必須とし、外部獣医療機関の協力で行う伴侶動物一次診療や大動物の臨床実習は時間を大幅に増やしました。また、細菌感染症や畜産・水産の生産現場での抗菌薬使用による薬剤耐性病原体などが問題になるなか、公衆衛生学の学外実習にも力を入れています。

学内施設では、細菌・ウイルスなどの微生物・病原体等を安全に取り扱う実践的教育研究施設を整備し、全国の大学で最高水準の実習施設となっています。





## 優れた教育環境下で獣医師養成 国際評価機関が“お墨付き”

EAEVEの認証評価では、カリキュラムをはじめ、教職員数、施設、動物及び動物由来の教材、学習資源、大学院と研究などについて多面的に審査を受けました。

その結果、▼卒業直後でも、獣医師として活躍できる獣医学的知識や手技が習得されるような教育が行われている▼安全で良好な教育環境が提供され、学生や外部の利害関係者などの要望を教育改善に取り入れるシステムがある—など、学生や社会の立場に立った獣医学教育が行われ、優れた環境下で獣医師が養成されている教育機関であると国際的に認められました。

なお、国内では第三者機関による認証評価が行われていませんでしたが、公益財団法人大学基準協会が2017年度から獣医学について評価を開始しており、山口大学と鹿児島大学の共同獣医学部は、2019年3月、基準に適合しているとの認定を受けました。その中でも、国際水準の獣医学教育に進化させるために、相互補完型の教員配置と施設整備を共に戦略的に推進してきたことなど、EAEVEの認証取得に向けた取り組みが高く評価されました。



iCOVER 獣医学国際教育研究センター

iCOVERは獣医学教育プログラムの開発と研究の高度化を推進する目的のため2015年1月に竣工しました。当センターは欧米水準の獣医学教育に対応した各種獣医学教育プログラムの開発を行うとともに、獣医学研究の促進と高度化を目指し、基礎研究から応用・臨床研究へ至る架け橋研究の育成と促進を図ることを目的としています。



## 日本が先導、アジア地域の獣医学教育の発展と獣医師養成



EAEVEの認証取得により、世界に通用する人材の育成に弾みがつくと同時に、国際的にポータブル化が進んでいる疾病の制御や食の安全に関わる高度な獣医師の育成機関として、アジアでのリーダー校としての責務が生じます。

山口大学では、かつては比較的多くの学生がペットなど小動物志向でしたが、教育改革が進むにつれて、産業動物臨床や公務員獣医師、大学教員や企業の研究職などを旨とする学生が増え、国際認証取得前からその効果が表れています。学生が自発的に、クラウドファンディングで費用を集め、学内に住みついている猫を捕獲して避妊・去勢を行うTNR活動を実践するなど、動物福祉や公衆衛生につながる動きも起きています。

人や動物、環境の衛生に関わる者が連携して取り組むOneHealth(ワンヘルス)の考え方が世界的に広がり、その中で医学・獣医学の横断的な連携などが求められ、獣医師の活躍の場は今後さらに広がります。国際認証の取得

期間は7年間で、今後、動物福祉に関する教育などへさらに力を入れるなど改善を続けるとともに、すでに連携協議会を設けているインドネシアの獣医学系大学の若手教育研究者育成プログラムも進展させます。さらに今後は、EAEVEの認証取得で培った獣医学教育改善の手法を、国内外の他の獣医学系教育機関にも浸透させ、欧米主導で進む獣医学教育の国際化の流れの中で、アジア地域の獣医学教育の発展とグローバルに活躍する獣医師養成のため、日本の獣医学系大学としてイニシアチブをとって貢献していきます。





発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場



山口大学 共同獣医学部

〒753-8515 山口市吉田1677-1 [TEL] 083-933-5940 [FAX] 083-933-5820